

どんな要望にも応えられる  
トリマーを目指して



▲左から、犬をトリミングする丸本美瑠さん、山口ひかりさん、館野響さん

TBC 学院 国際ペット総合専門学校

山口 ひかりさん (トリマー学科1年)

丸本 美瑠さん (トリマー学科2年)

館野 響さん (ペットスペシャリスト学科2年)

(令和2年3月取材当時)

プロフィール

犬が大好きな3人。幼い頃からペットショップで働くトリマーを見て「自分もお客さんに喜んでもらえるトリミングができるようになりたい」とトリマーの道を目指すように。

入学当時から憧れていた「全国トリミングコンテスト」に、念願叶って今年出場。

丸本さんが出場したデザインカット部門は、独創的なデザインを形にし、そのアイデアと技術力を競い合います。

丸本さんは難易度が高いハート型のカットにして、独自性にこだわりました。大会前は家に人形を持ち帰って何度も練習を重ねた丸本さんは「最高賞で自分の名前が呼ばれた時は、努力が報われ、うれしくなった」と振り返ります。

まず、山口さんが出場したのは、トリマー学科に通う1年生が対象のオールシザー部門です。この部門では「ラム・クリップ」と呼ばれる、全体の毛並みを子羊のようにふんわりとした姿に仕上げるカットの技術力を競い合います。

山口さんは「出場するのなら賞を取りたい」と強い思いを持って臨み、「自分を評価してもらえて、自信になった」と笑顔があふれます。

彼女たちは本大会で勝ち取った最優秀技術賞と経験を糧に、さらに技術や知識を身に付け「お客さんのオーダーやどんな犬種にも応えられ、活躍できるトリマーになりたい」と社会で働く自分の姿を見据えています。

彼女たち自身が思い描くトリマー像にさらに近づくため、日々練習に力を注ぐ姿は輝いています。

館野さんは、ラム・クリップの技術力を競うもう一つのオールシザー部門に出場しました。

トリミングだけでなく動物看護などの幅広い分野を学ぶ学科に通う館野さんは「練習時間が短い中、先生からのアドバイスをしっかり守ることで、今までで一番の出来に仕上げる事ができた。今まで頑張ってきた」と最高賞を取った喜びを噛み締めます。

通常、犬のトリミングは、直前にシャンプーをしますが、規定により前日に犬をシャンプーした状態でも臨んだ本大会。毛が立ちにくいため、3人とも少しでも形を出せるように、時間いっぱいカットし、最後、チップングと呼ばれるはさみの刃先を使って毛先を整える手法で仕上げ、見事栄冠を勝ち取りました。